

平成22年夏号

発行：三重耳鼻咽喉科 莊司邦夫・坂井田麻祐子

津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>

携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

<最近のワクチン事情>

最近、子供を中心に、新しいワクチンが徐々に入荷されており、今まで予防しにくかった子供の髄膜炎や肺炎が予防出来るようになってきています。中耳炎の子供さんを持つ親御さんからよく質問があるワクチンについて、お話ししたいと思います。

2008年12月より、Hib（ヒブ）ワクチンが販売開始となりました。これは、b型インフルエンザ菌（いわゆる「インフルエンザ」とは違い、細菌です）のワクチンです。細菌性髄膜炎（さいきんせいずいまくえん）といって、バイ菌が何かのきっかけで血液の中に入り、脳の中で炎症を起こす病気があり、b型インフルエンザ菌は、その原因の一つと言われています。細菌性髄膜炎は、致命的になることもあり、また治っても脳に障害が残ることもあるということで、子供達を守るには非常に大切なワクチンといえます。

また、今年の2月より、肺炎球菌ワクチン（プレベナー）が発売開始となりました。これも、肺炎や細菌性髄膜炎を起こす原因であるといわれており、上記のHibワクチンとで、8割方の髄膜炎を予防することが出来ると言われています。

実は、これらのインフルエンザ菌や肺炎球菌は、1歳を超えた

人の鼻やのどに住み着いており、普段はおとなしくしています。ところが、風邪（ウイルス感染）をひいたり、抵抗力が弱くなったりすると、突然増えだして、悪さをします。

これらの菌が肺炎や髄膜炎を起こすことは比較的まれで、耳鼻科でよく見られる中耳炎、副鼻腔炎、咽喉頭炎の原因になります。特に、保育園児や兄弟の多い家族などでは、菌が蔓延しやすくなります。2歳以下の免疫力の弱い子供達やお年寄りには、薬に効きにくいタイプの、いわゆる「たちの悪い」菌が付き、病気が長引いたり、重症化したりします。

そこで、中耳炎を繰り返す子供さんを持つお母さん方からよく質問があります。

「肺炎球菌ワクチンや、Hib ワクチンで、中耳炎は予防出来ますか」

はい、と言いたい所ですが、実はそう簡単に中耳炎を予防する方法はありません。

Hib ワクチンは、b型インフルエンザ菌のワクチンですが、中耳炎や鼻炎を起こしてくるインフルエンザ菌のほとんどは無莢膜型（型別不能型）といって、タイプの違うものです。なので、打って頂いても、中耳炎の予防にはなりません。

肺炎球菌ワクチンは、正式には「7価蛋白結合型肺炎球菌ワクチン」といい、要は、7種類の、タイプの異なる肺炎球菌の感染を予防するものです。この7種類は、髄膜炎、中耳炎などを起こした子供達から見つかった肺炎球菌の約8割、中耳炎だけでみれば6割以上をカバーするものだそうです。また、上に述べた、「たちの悪い」肺炎球菌のタイプもカバーしているとのことで、大いに期待出来るようですが、10年以上前からこのワクチンを使っている海外のデータを見ると、少し寂しい結果です。

全ての中耳炎を予防する確率・・・約6%
肺炎球菌による中耳炎を予防する確率・・・約34%
ワクチンに入っている型の肺炎球菌による
中耳炎を予防する確率・・・約57%
反復性中耳炎を予防する確率・・・約16%

もっと、予防率が高ければ言うことなしなのですが、現在さらに良いワクチンを開発中ですので、それらの登場を期待したいと思います。

当院で中耳炎を起こしている子供さんからは、やはり肺炎球菌、インフルエンザ菌ともよく見つかります。特に、薬の効きにくい肺炎球菌は、幼い子供さんほど多く見られ、少しでも予防出来るのであれば、ワクチンをお勧めしたいと思っています。中耳炎を繰り返すのは、お子さんにとってもつらいですが、通院して頂くご両親のご苦労は、計り知れないものです。

まだ自己負担のワクチンですが、子供さん達を守るために、ぜひとも接種をして下さい。また、ワクチンを受けた子供達が病気にならないことは、周りの大人たちもその菌から遠ざかることにつながり、その恩恵を受けることができます。

<大人のワクチン情報>

サーバリックスという名前が出ていますが、ヒトパピローマウイルス（HPV）のワクチンが昨年12月に新しく発売されました。HPVは、ほとんどの女性が一生に一度は感染するありふれたウイルスですが、多くの子宮頸ガンの原因と言われています。子宮頸ガンは発見が遅れると非常に予後が悪く、また初期症状はあまりはつきりしないため、定期的なガン検診が勧められてきま

した。ワクチンの販売が開始されてからは、ワクチンと検診の両方で子宮頸ガンのリスクを低下させることが期待出来そうです。問題は、お値段。かなりお高く、また3回接種が必要なこともあり、接種する方があまり増えていないそうです。

しかし、万が一ガンになってしまったからの治療費や入院費を考えると、ワクチンで予防出来るのであればこれほど安いものはないでしょう。一部の自治体では、10代の女性に無料接種を行っています。近い将来、国が負担してくれるようになることを期待しますが、現時点では津市は自費です。

<今までにあるワクチンも大変重要です>

赤ちゃんが生まれてから定期的に受けるワクチンは、子供の命を守るためにとても大切なものです。また、任意接種になっているものでも、受けておくべきものばかりです。

意外と知られていませんが、ムンプスは、大きくなってからかかると一側の高度な難聴（ほとんど聞こえない）になるおそれがあります。発症すると残念ながら治ることはありません。

百日咳は、昨年長引く咳の原因として話題になりました。子供の頃に定期予防接種を受けていますが、大人になるまで免疫は続かず、かかってしまうことがあります。問題なのは、知らずにかかった大人が、免疫のない子供に移してしまうということです。子供の場合は重症化しますので、やはり子供にきちんとワクチン接種をさせることが重要になってきます。

残念ながら、当院では上記のワクチンの接種は行っておりませんが、かかりつけの小児科や産婦人科、内科などでご相談頂き、適切なワクチン接種を受けて下さいね。